

平成 22 年 5 月 17 日現在

研究種目：若手研究（スタートアップ）  
 研究期間：2008～2009  
 課題番号：20820044  
 研究課題名（和文） 外国語 e ラーニングにおけるメンター研修プログラムの開発と運用  
 研究課題名（英文） The development and implementation of a training program for mentors in foreign language e-learning  
 研究代表者  
 茂木 良治（MOGI RYOJI）  
 早稲田大学・教育・総合科学学術院・助手  
 研究者番号：40507985

## 研究成果の概要（和文）：

外国語科目の e ラーニングにおいて学習者の学習を支援するメンターがどのような支援行動を行っているか観察・分析した実地調査と、国内外においてメンターの役割やスキルとしてどのようなものが提案されているのか検証した文献調査から、日本の外国語教育環境に適したメンターの役割及び求められるスキルを抽出することに成功した。その結果をもとにメンターを養成するための研修プログラム案を構築するに至った。

## 研究成果の概要（英文）：

The object of the present study is to develop a program to train mentors in foreign language e-learning. To achieve this goal, two types of research are combined: one studies how mentors help learners learn their foreign language in an e-learning setting; the other examines, by researching literature (published all over the world), the roles mentors in such settings play and the skills they possess. From the findings, we have redefined mentors' roles and skills that can possibly be adapted to the foreign language learning in Japan. Furthermore, based on the results, we have constructed yet another training program for e-learning mentors.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
平成 20 年度	780,000	234,000	1,014,000
平成 21 年度	610,000	183,000	793,000
総計	1,390,000	417,000	1,807,000

## 研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育(3005)

キーワード： 外国語教育、 e ラーニング、 メンター、 ポートフォリオ、 研修プログラム

## 1. 研究開始当初の背景

文部科学省が 2001 年に大学設置基準を改正したことで、e ラーニングによる授業が単位として認められることになり、高等教育において e ラーニングの導入が加速し、現在で

は約半数が実施している。その中でも外国語教育が最も e ラーニングが実施されている科目である（独立行政法人メディア教育開発センター編『e ラーニング等の IT を活用した教育に関する調査報告書(2007 年)』、2007 年）。

その背景として、目標言語と離れた土地で外国語を学習する場合、日常生活の中で外国語を使う（読む・聞く・書く・話す）機会が乏しいため、時間や場所の制約を受けないeラーニングを導入して少しでも外国語を使う機会を増やし、学習者の外国語習得を促すという理由があげられる。

このように外国語科目において、eラーニングが盛んに導入されていく一方で、eラーニングのように主体的に学習に取り組む学習環境に適応できずに、ドロップアウトしてしまう学習者が跡を絶たない。そのため、学習者が主体的に学習に取り組めるように支援するメンターの介入が重要となる。国内では青山学院大学eLPCOにおいてeラーニング全般におけるメンターの育成は始まっているが、外国語科目に特化した養成プログラムは未だ提案されていない。このように、メンターが十分に育成されていない現状では、外国語eラーニングでの教育の質を保證することが難しい。そこで、本研究では外国語eラーニングにおけるメンターの研修プログラムの構築を目指した。

## 2. 研究の目的

(1) 国内のeラーニングの事例を見てみると、学習支援者に対して、メンター・チューター・教育コーチなど様々な呼称が使用されている。そのため定義が不明確となっている。日本・アメリカ・ヨーロッパの文献からeラーニングにおける学習支援者の定義や担う役割を調査し、類似点・相違点をまとめる。

(2) 研究代表者が所属する教育機関にて、外国語eラーニングにおいて実際に学生の支援を担当するメンターの支援活動を観察しつつ、インタビューを実施し、彼らがどのような役割を担っているのか、また、そのためにどのようなスキルが必要となるか明確にする。

(3) (1) で記した文献調査と(2) で記した実地調査を統合して、メンターに必要なスキルを明記した外国語メンターポートフォリオを開発し、それに基づき汎用性の高い研修プログラムを構築する。

## 3. 研究の方法

(1) 国内の文献の他に、eラーニング先進国である欧米諸国の書籍・学術論文を調査した。また、外国語自律学習研究で有名なフランスナンシー第二大学において専門家に学習支援者の役割についてヒアリングも行った。それらのデータからeラーニングでの学習支援者の定義とその役割を比較検討した。

(2) 実地調査として、本学の外国語eラーニングの中でメンターとして実際に勤務している人物を被験者とし、支援活動を観察した。その後、授業を担当する教員との仕事の分担、学習支援方法、メンターという職務に関する意識を中心的なトピックとして、被験者ができるだけ自由に発言できるように半構造化インタビューを実施し、メンターがどのような支援活動をしているのか詳細に調査した。

(3) (1) の文献調査と(2) の外国語科目における実地調査の結果をもとに、メンターに必要なスキルを抽出し、「～ができる」という形式(Can-do形式)で外国語eラーニングメンターポートフォリオを作成した。そのポートフォリオに基づいて、インストラクショナルデザインモデルのADDIEモデル(図1)に沿って研修プログラムを開発し、運用する。

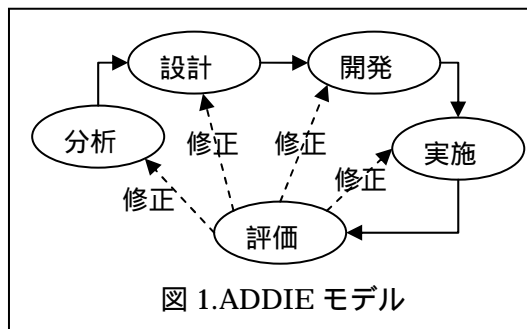


図1.ADDIEモデル

ADDIEモデルとは、「分析(ANALYZE)」「設計(DESIGN)」「開発(DEVELOP)」「実施(IMPLEMENT)」「評価(EVALUATE)」の5つの段階を通して、効果・効率・魅力のあるプログラムを構築するためのプロセスである(ガニエ著、インストラクショナルデザインの原理、2005)。

本研究では、ポートフォリオの各項目をメンター養成のニーズとみなし(「分析」)、研修プログラムの研修目標とした。この研修目標をメンター経験のない人が達成できるような研修プログラムをデザインする(「設計」)。このデザインにしたがって、研修コンテンツをデジタル形式で製作する(「開発」)。そのコンテンツを実際にメンターに使用してもらいスキル向上を図ってもらう(「実施」)。そして、研修プログラムの効果を評価し(「評価」)、問題のある箇所に関しては循環的に修正を図る。

## 4. 研究成果

(1) eラーニングの学習支援者の定義と役割の共通点・相違点を国内外の文献から調査

した。その結果、日本ではメンター・チューター・教育コーチなど様々な呼称が学習支援者につけられているものの、主に学習支援者は電子掲示板（BBS）やメールなどのコミュニケーションツールにおける学生とのコミュニケーションを通して、学習内容と学習管理をサポートしていた。学習者は教育機関が提供しているeラーニングプログラムでつつがなく学習科目を学ぶことができるように支援する役割を担っている。これはイギリスITトレーニング協会が提案している学習支援者の役割に類似している。それに対して、ヨーロッパeラーニング協会（EifFL）の「教師とトレーナーのためのeラーニング職務能力リスト」や、フランスの「遠隔教育における教員の職務能力リスト」（Haeuw & Coulon, 2001）では、上記のような学習支援者像だけではなく、eラーニングによりもたらされる自律学習環境を活かし、学習者が学習科目を学習しながら、学習に取り組む方法を学ぶ能力、つまり自己学習力を発達させる学習支援者像が求められていることが明確となった。このような学習支援者を養成することで、eラーニングにより従来の対面授業では実現することができなかつた効果をもたらす可能性を持っている。

## （2）

本学の外国語科目において、対面授業の補足としてeラーニングは活用されていた。主に文法・発音・語彙など基礎的な学習項目の定着を目的として利用されていた。メンターとして活動している人々にインタビューをした結果、被験者すべてが外国語のティーチングアシスタントや講師として従事した経験はあるものの、本学で勤務するまでオンラインでの学習支援の経験はなかつた。彼らの活動について調査したところ、担当教員のオンライン教材開発の補助、教材の管理、学習者の学習状況の把握を中心に活動していることが明確になった。学習者を支援することよりも、教員を支援するティーチングアシスタントとしての活動が中心的であった。そのため、外国語能力とコンピュータを操作する情報処理能力が最も求められていた。この結果は、国内外で提案されている学習支援者像とは大きく乖離していた。メンターの役割が外国語教育の分野においてあまり認知されていないことがこのような結果に起因しているようだ。今後、eラーニングの外国語学習環境を効果的に活用するためにも、メンターポートフォリオと研修プログラムが必要であることが明確になった。

## （3）

上記の調査を統合する形で、外国語eラーニング環境を活用するためにメンターに求め

られる支援活動とスキルを抽出し、包括的なポートフォリオを構築した。外国語eラーニングメンターの支援活動として、以下の4タイプの支援活動と、それに対応するスキルを設定した。

### 外国語学習に関する支援活動

- インターネットリソースを利用し、オンライン学習活動をデザインできる。
- 学習者に学習ストラテジーを意識させるようなアドバイスを送ることができる。
- オンライン学習活動を活性化させることができる。
- 学習者間のコミュニケーションを活発化させることができる。
- 学習者のエラーを訂正できる。
- 学習者に適切なフィードバックを与えることができる。

### 情報通信技術に関する支援活動

- eラーニングで使用する情報通信技術ツールを使いこなすことができる。
- 学習者の情報通信技術スキルを識別し、適切なツールを選択できる。
- コミュニケーションツールを通して、学習者とコミュニケーションができる。
- コミュニケーションツールを利用して、学習者間のコミュニケーションを促進できる。

### 異文化理解に関する支援活動

- 学習者に自文化と他文化の違いを意識させることができる。
- 学習者が他文化を受け入れる姿勢を持てるようにアドバイスを送ることができる。
- 学習者がステレオタイプや偏見に対して、批判的姿勢を持てるようにアドバイスを送ることができる。

学習に取り組む方法を学ぶ能力（自己学習力）を高める支援活動

- 学習者の学習計画を支援できる。
- 学習者が学習リソースを選択するのを支援できる。
- 学習者が学習方法を選択するのを支援できる。
- 学習者が自分の学習を評価するのを支援できる。

メンターがこれらのスキルを身につけているか自己評価するためのツールである外国語メンターポートフォリオの開発を進めた。そして、このポートフォリオで設定したスキルをもとにADDIEモデルに沿って、研修プログラムを設計した。研修プログラムは学習者を支援するケースを提示し、シミュレーションするというものになっている。このポートフォリオと研修プログラムを運用後、評価・修正というプロセスを循環的に行い、洗練していく。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計1件)

茂木良治、海外の事例にみるeラーニング学習支援者、早稲田大学教育学部学術研究 - 複合文化学編 -、第57号、2008年、査読無、pp.53-62

[学会発表](計2件)

茂木良治、学習者から見た遠隔自律学習 - オンライン学習日誌の分析より -、国際研究集会 2009 外国語教育の文脈化：『ヨーロッパ言語共通参照枠』+ 複言語主義・複文化主義 + ICT とポートフォリオを用いた自律学習、2009年4月5日、京都大学

茂木良治、外国語教育におけるオンライン学習支援者の育成に向けて、2008年度日本フランス語教育学会、2008年10月12日、京都外国語大学

## 6. 研究組織

(1)研究代表者

茂木 良治 (MOGI RYOJI)

早稲田大学教育・総合科学学術院・助手  
研究者番号：40507985